

# 私の趣味

2024年2月1日

1 / 3

何をやっても長続きしない私ですが、唯一続いているのがサッカーです。兄の影響で、小学3年生のころにはじめ、現在も続けています。Jリーグが開幕した1993年、私は小学6年生でした。開幕戦の横浜マリノス VS ヴェルディ川崎の試合を友達と一緒にテレビで見たことを今でもよく覚えています。

Jリーグが開幕して30年が過ぎ、今では当たり前のように出場しているワールドカップ（W杯）。今回は、サッカー日本代表のW杯での過去の成績を私の思い出と私見を交え紹介していきます。

## ⚽ 1994年アメリカ大会（予選敗退）：当時13歳（中1）

アジア最終予選・最終戦で勝てば初のW杯出場権獲得の日本は、対戦相手のイラクに対し後半アディショナルタイムに同点ゴールを許し、その出場権を逃しました。「ドーハの悲劇」と呼ばれるのがこの試合のことです。ラモスが片膝を当て、頭を抱えて座り込むシーンが印象的でした。3つ上の兄が泣いていたのをよく覚えています。ちなみに、現日本代表監督の森保一さんも選手としてこの試合に出場しています。私はこの時のユニフォームが大好きです。



## ⚽ 1998年フランス大会（グループステージ敗退）：当時17歳（高2）

「ジョホールバルの歓喜」と呼ばれる野人岡野のゴールで初のW杯出場を決めた日本。大会では3戦全敗と結果は残せませんでした。W杯初得点を中山雅史が決めていますが、試合中に足を踏まれ骨折している中でのゴールだったようです。三浦知良（カズ）の代役として出場した城彰二は結果が残せなかった上、ガムを噛みながら試合に出ていたせいか、帰国時の空港内でファンから水をかけられていました。（ガムは関係ないかも…）厳しい世界だなと感じたと同時に、これまでになくサッカーへの関心度が上がってきていることをうれしく感じました。また、一時代を築いてきたカズ・ラモス・中山から中田英寿・中村俊輔・小野伸二へと世代交代となったのもこの大会だと思います。

## ⚽ 2002年日韓大会（ベスト16）：当時21歳（大3）

本国開催ということで、予選がなく出場できる大会でした。当時私は大学生で、チケットを手に入れるのに1日中、公衆電話からチケット売り場へ電話をかけそれでも手に入らない状況でした。結果は、グループステージを2勝1分けて1位通過しましたが、ベスト16でトルコと対戦し敗れました。今となっては、多くの選手が海外でプレーして



いますが、このころはまだ海外移籍が行われておらず、この大会で日本の選手が髪の毛を派手に染めているのも、海外チームへのアピールと言われています。ちなみに私はベッカムヘアーにしていました。（恥）

## ⚽ 2006年ドイツ大会（グループステージ敗退）

日韓ワールドカップ後、海外に活躍の場を移し当時“黄金世代”と呼ばれた中田英寿や小野伸二を中

# 私の趣味

2024年2月1日

2 / 3

心としたメンバーで構成され、これまでにない期待をされた大会でした。しかし結果は1分2敗でグループステージ敗退。同じアジア地域から出場したオーストラリアに負けたことが1番の原因ではないかと感じました。またこの大会後、中田は引退しました。最後のブラジル戦終了後、グラウンド上で仰向けになり空を仰ぐ姿が忘れられません。それぞれの時代には顔となる選手がおり、その象徴がカズから中田へ渡り次はと考えると誰も思い当たる選手がいませんでした。



## ⚽ 2010年南アフリカ大会（ベスト16）

この大会から代表のキャプテンになったのが長谷部誠です。カズや中田のような攻撃をする選手ではなく、派手さのない守備的な選手ですが、この後8年間キャプテンを務める次の顔となります。同時に、本田圭佑が中心となるチーム編成に変わったのもこのころからです。私は私の強い本田みたいなタイプがちょっと苦手なのですが、対デンマーク戦（3-1）で見た無回転フリーキックはしびれました。順当に予選を突破した日本ですが、決勝トーナメント初戦でパラグアイにPK戦の末破れ、またしてもベスト8への進出は次回へ持ち越されました。ちなみに私がもう少しサッカーがうまかったらこの大会が出場するには年齢的にベストだったと思います。なんちゃって。でも、そんな感じで見ていました。



## ⚽ 2014年ブラジル大会（グループステージ敗退）

強豪ヨーロッパのチームで活躍する本田・長友（イタリア）内田（ドイツ）香川（イングランド）を中心としたメンバーで、対戦相手もクジ運が良かったせいも過去3大会の中でも1番安心して見ていられる相手だけに期待は大きいものでした。しかし結果は1分2敗。目標のベスト8どころか結局1勝もあげられないまま幕を閉じました。

## ⚽ 2018年ロシア大会（ベスト16）

本田の3大会連続ゴールの活躍などで、1勝1分1負の結果で決勝トーナメントに進んだ日本代表は、夢のベスト8を目指しベルギーと対戦しました。ベルギーはこの大会で最終成績が3位となる強豪でした。前半を0-0で折り返した後半早々に日本が2点を立て続けに奪いました。これは勝ったとさすがに思いました。しかし、残り15分というところで追いつかれました。流れはベルギーにあったものの同点でPK戦ならという思いの中、後半アディショナルタイムに逆転を許し負けてしまいました。勝てる試合でした。サッカーは野球とは異なり決められた時間の中で試合を行います。そのため、汚い方法ですが、ファールを受けた際に痛くもないのにグラウンドにうずくまったり、攻撃をすることなくパスを回し続けわざと時間稼ぎをします。逆転されたシーンも、日本のコーナーキックを相手ゴールキーパーにキャッチされそこからカウンターを受け、日本は守り切れず失点をします。この失点も、勝てる可能性を考えたら蹴らずにパスを選択し相手にボールを渡さない方法を選ぶべきでした。

# 私の趣味

2024年2月1日

3 / 3

## ⚽ 2022年カタール大会（ベスト16）



まだ記憶にも新しいカタール大会。優勝経験国のドイツ・スペインに勝利し、世界中を驚かせました。W杯のグループリーグは基本4チーム総当たりで行うのですが、決勝トーナメントに進出するには1勝1分1負が最低ラインと言われ、日本のような下位チームはどの大会でも目標をそこに設定します。たとえ日本と同レベルのコスタリカに勝ったとしても、ドイツ・スペインのどちらかに引き分ける必要があります。戦前の予想は確実にグループリーグ敗退でした。しかし結果はグループリーグ1位通過。何よりも初戦のドイツに勝利したことが大きかったと思います。前半に先制されながらも、後半に2点を奪い逆転勝利します。この試合でゴールを決めた堂安と浅野は所属チームがドイツであり、日本の登録メンバー26名のうち8名がドイツリーグで活躍していることも勝因の1つかもしれません。「あこがれるのはやめましょう🙅」ではありませんが、ドイツ人に対して苦手意識がなく、普段通りのプレーができたのかもしれない。

スペイン戦は兄と一緒にテレビ観戦していました。テレビで連日放送された“三苦の1ミリ”のシーンも、VARの確認中「ダメダメ、出た出た」と諦め半分で言っていたのですが、ゴールの判定が出た時には抱き合って喜びました。誰もが予想していなかったグループステージの首位通過の結果にベスト8もあるぞと、大きな期待をしていました。しかし、最終成績は過去大会と同様のベスト16。強豪2チームに勝利しましたが、それよりも劣るチームに2敗して日本の戦いは終わりました。



2026年のW杯はカナダ・メキシコ・アメリカ合衆国での開催が決定しています。また、この大会から参加国数がこれまでの32から48に増えるようです。サッカーファンの私としては、簡単にいられるとW杯の価値が下がるような気がします…。どちらにせよ今回のカタール大会での結果は、過去3度のベスト16と同じとはいえ、今まで以上の可能性を感じました。また、三苦や久保といった新しいスターになるであろう選手も数多く活躍しており、これまで以上に世界との実力差も縮んでくると思います。その中でも私が注目しているのが遠藤です。イングランドのリバプールに所属しており身体が強く、頭の良い選手です。これからの日本代表を引っ張っていく次の顔になる選手だと思います。

日本サッカー協会は大きく2つの目標を掲げており、2030年までにW杯ベスト4、2050年にW杯を日本で開催し優勝するとしています。2050年となると、その時私は69歳。サムライブルーのユニフォームを着て応援している事でしょう。私のサッカー熱が伝わりましたでしょうか？これからもW杯優勝を夢見て日本サッカーを応援しようと思います。

がんばれニッポン⚽